

令和3年度自己評価計画最終報告

石川県立金沢泉丘高等学校(通信制課程)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	備考
1 生徒への学習支援を積極的に行い、報告課題の提出状況や出席日数の改善を図り、単位の修得率を上げる。	①報告課題を計画的に提出できるよう、「学習進度表」を定期的に郵送する。併せて学校配信メールやGoogle Classroomで「教務のお知らせ」を発信する。	定期試験の受験率が A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満	【判定 C】 前期受験率 76.9% 後期受験率 67.3% (昨年度) 前期受験率 73.8% 後期受験率 66.0%	・年度当初はレポートを提出するものの後期試験受験まで到達できない生徒が少なからずいたが、前後期とも昨年度の受験率を上回った。 ・受験率を上げるために、年間を通して継続的に学習に取り組めるよう、多方面から支援していく。
	②報告課題の作成に困難を感じている生徒に向けて、平日レポート支援教室を設ける。また、メールやGoogle Classroomや電話を含めいろいろな形での質問に答える。	メールやFAXや電話を含め科目の質問をしたのべ生徒数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	【判定 B】 質問者数 292人 質問時間 4086分 (昨年度:判定A) 質問者数 310人 質問時間 5196分	・昨年度は休校によりスクーリング回数が減った影響で、質問件数が増加したが、今年度は一昨年並である。 今後もGoogle Classroomなども含め、さまざまな形で質問ができるよう環境を整えたい。
学校関係者評価委員会の評価		定期試験の受験率は昨年度に比べると上昇しているが、まだ低めであると感じる。B判定(70%以上)にすることを目指して欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		定期試験受験に必要な条件である、レポート提出の締切が守られるよう、授業だけでなくさまざまな場面で声を掛け、1科目でも受験し、単位修得ができるよう、年間を通して継続して支援していきたい。		
2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るため、時間厳守や適切な言葉遣いの励行に努める。	①スクーリングにおいて、生徒としての自覚とマナー向上への意識を高めるため、生徒証明証の携帯を義務づける。	生徒証明証不携帯のため、臨時生徒証を年間2回以上貸出した生徒数が A 10人以下 B 11~20人 C 21~30人 D 31人以上	【判定 B】 生徒数 14名 (昨年度:判定C) 23名	・昨年度より、貸出数が大きく減少した。今年度の指導が功を奏し、生徒自身の自覚を高めた結果と言える。また、生徒自身のマナー遵守の意識の高さも素地にあり、よい効果が生じたと考えられる。 次年度も同様の指導を継続していきたい。
	②登下校時の挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度の育成を図る。	「あなたは登下校時に挨拶をしていますか」という質問に①「自分からすすんでしている」と答える生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	【判定 A】 96.4% (昨年度:判定A) 96.6%	・昨年同様、高い数値であった。 教師が挨拶を通じて相手を尊重する態度を育成することも重要であるが、その際に生徒の様子を観察することで、状況の変化があれば、管理職、担任、保護者等とも情報を共有して問題解決に努めていきたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	備考
3 生徒一人一人の生活状況を把握し、職員間で共有することにより、一層適切に支援する体制をつくる。	①保護者が担任と個別に懇談する機会を持ちやすくし、学校と保護者が認識を共有しながら、効果的な生徒支援を行えるようにする。学校配信メールでも情報を発信する。	年2回の個別懇談期間を含め、年度内に担任が1回は懇談した保護者が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 B】 64.3% (昨年度:判定C) 59.2%	・未成年生徒389人中、250人の保護者と面談を実施した。学年別にみると、1年76.5% 2年54.1% 3年74.8%であり、入学当初の学校生活や進路・卒業に関する保護者との面談が多い。どの学年も更に面談数が増えるように、案内の周知や面談日時の柔軟な対応に努めたい。
	②生徒理解を深めるため、6月に面談月間を設ける。また、後期にも適宜面談をし、生徒の自己実現の支援に努める。	活躍生徒と1回以上面談できた割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 B】 61.2% (昨年度:判定C)	・生徒数492人中、301人の生徒と面談を実施した。学年別にみると3年生が94.2%と圧倒的に多く、続いて1年生61.0%、2年生50.0%となっている。保護者面談の傾向と同じく進路・卒業や学校生活についての面談内容が多いと考えられる。今後とも面談月間にこだわらず随時必要に応じて面談を実施するように努めたい。
学校関係評価委員会の評価		通信制におけるGIGAスクール構想実現のための道のりはどれほどのものか。		
学校関係評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方針		今年度一人一台パソコンは配置されておらず、次年度120台配置予定である。生徒の登校状況を踏まえると一人一台を継続して活用するのは難しいが、スクーリングでの学習内容を工夫しICTを活用して学ぶ機会を設けていきたい。		
4 各種業務の効率化を図り、ワークライフ・バランスを実現する。	①各課内での業務の平準化と協力しあえる職場環境を整え、職員のワークライフ・バランスの実現を目指す。	年次休暇を12日以上取得したという教員が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	【判定 D】 50.0%	・平均取得日数は10.8日である。5日未満が5人おり、二極化の傾向がみられた。定時退庁はおおむね行われているので、次年度はその意識を計画的な年次休暇の取得につなげるような取組を実施する。
5 卒業後の生き方を考えさせ、生徒の能力・適性を踏まえた進路指導やキャリア教育を行い、就業率や進学率を高める。	①生徒が自分の適性・能力を活かし、卒業後の進路決定ができるよう指導を行う。	進路説明会が自分の進路を考えるのに役立つと答えた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定 A】 99.3% 参加者 145名	・生徒の進路先を中心に参加校を決定していることから参加者が多かった。2日目(月曜日)の参加者が1日目(日曜日)の半数であった。2日目にも参加者が集まるように工夫が必要である。金沢工業大学や北陸大学など理系の学部がある大学にも参加を呼びかけて欲しいと要望があり、今後検討していきたい。
	②就労の意義、職業、資格について学習する。自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深める。	卒業時進路が決定している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【判定 B】 72.3%	・令和4年3月31日現在、就職活動を行う17人の中で、ハローワークで就職が決まりそうな生徒が1名いる。浪人生が複数名おり、受験せず浪人を決断する者が少なくない。生徒がしっかりと受験できるように進路指導の方策を考えたい。
学校関係評価委員会の評価		自信のアイデンティティを考える機会として、少人数グループでプレゼンテーションする機会などを設けると進路検討に役立つと思う。		
学校関係評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方針		生徒会活動、委員会活動、学校行事を通して仲間と交流し思いを伝え合う場面を設定している。今後はZoom等を用いた参加方法も検討し、交流に参加しやすい状況をつくっていきたい。		